明和八年

遊子方言

1963
7

廿三番目

遊子方言叙

花之美多則多矣不若花街花之美且情桃李雖然美不言不語牡丹海棠雖然艶不笑不歌此花也不唯能言語笑歌其色

1963
7

一過目則奪精蕩魂其香一觸
鼻則飛心斷腸加旃霜露不凋
風雨不摧取之無禁用之不盡
春秋晝夜莫時不芳菲奚爲與
卉木花同榮枯哉卉木花猶且
賞之況於此花乎北州之遊嗚
呼樂夫因以序

田舍老人多田爺謹書

用録

髮帽 附り 女の髪。角の髪。姫の髪。主。大門口。

中 乃 町

裏のけしき

雪 ゆき 行

更て乃 体

えはくめのさろ

畢

髮帽

小まきのさろ 柳巴でこなたの男がすくしあさまの

そげさ。大事さ大びさいぱ掛けさ又くる羽織り。

幅の細き結の事むすびられ細身のまきぶし拓まえ

ぶーよごれ。黒羽二重の紋浴ふもちーよごれーー小袖。

帯ぎ長い小紋金坂の。片袖ちぐらのやうにえいろ乃

さめさ。紺縮緬のだぶでんぐきふくそまる。幅びろの

ちくー下駄。やまぢ頭巾かさをれ拵。鼻紙袋へかーと

こんぶ菊の花の物すに物うけ。我より外に色男い
かーとぞ。傍にあらうとぞきろ〳〵とうまりてゐくど
やしにぶら〳〵と行むうのよりとニナ者ごりの人拙
よきさ素和そこのつの老ごまきざし立流にこ編編の
後入羽織。ハツ紋ろろ〳〵と。丹後縞の小袖。ちとこ長い
網戸紫編編のちゑん。琉物ご屋の袴。ちらぬき草
履とくきさ供よいおきの風呂敷ぼくみとせ花とり世
扇ふいざーて来る

通り者　ろく〳〵毛男ろく　むとこ　いやとれいぞでござりゆとは
乃先生とは仰るヤはゆさ　通者　先生いさんぬいろく
おまへどちろ　ひおさる　むとこ　私い本石名へまりまた
通者　ひ孫ぞろね来ろ何しにひろ来やる　むとこ　伯
父きの。病氣で取り使てそ。ふ鉢にさんどまた　通者　伯父
病氣やこべぐつとなどさいまの　むとこ　ぞぜでござりまた
通者　あんまりぞ。はぐもあ。よい夫氣だやにとって正燈
寺とくらませよとぞ取りよ　むとこ　なるゆど私も正燈寺

かへ糸りたくさんぢざり角とぐ。もりて来く。本石へ糸ら
れませうら 通り者 むりきません。そして。本石へ大法
に。ぢじてもようさ むとこ 何ふもせよ糸りましよ
通り者 そんぢらぐつと。供をゆーがよかろをあれがもりさ
こそも。行ふが無しろくもぢんとをあいるさ。そしより
い。内へゆつてゆく方がらくだ。角平ぢとこんぢつ通さ
来ろこれ色男をとくく 供角平 それをとをれ月がご
ざらば。糸りたしまろ むとこ りきもりどとをあいゆく

ていそうこれい。あるこれ道で関ろくんくゆ関ろや
正覚寺へまいるようて角平をゆーまんかるそうば
はあんぢらあまんを 供 久くる 通り者 あ来いちとで大
きいるい。彩りゆそぐんくぢもるあぐりがある
赤い色男が。埋木となるようく。ぢんくあれが供
板で。若二坊のやう色男とかと。揚巻の助六がやんつ
くり変さるやぢらぬたくいぢんぢぐ。伊豆屋とりの
うあ宇治ぐ。糸関れも。ちつくら。のろとりさん

たばこぼん

煙草盆もちよつきり。ぐかばこ。こやく。ひーとさてい

まい　新宿の女房　さて仕出しまを。煙草あいござり

はとが。一ぱいおんしやら。あつこやるひひ。ごさりまを

ぬ。　通り者　りやさ。煙草あだうりて。しさ　女房　どつちこと

で。ごさりはし。　通り者　ごとこいどあざ。塩さく　女房　かーへ

紙ぶくろ。ごりて。やとりとと　女房　これ。ふどん。をぎるあどら。も

ありまして。あとりへ。貸てゆる　女房　一ぱいでもこれよこれさどあど。さまつこる　ふら　どよも

仕やせんが。だらが。べる。やまつこ。こらも。べるこづ。ござりや

を。おくさき。上下と二どこかで。始ぬ。二こいあけて。茶や

ん。こる　女房　そんなら。茶づけ一ぱい。おきこんで。こやー

ひてんさい。いそがつしやる　通り者　二人　あ宿のこをようりふあいできる

ひこ。ぐこきせる　女房　きのどくふくとちと。おまちらあそ。ぐさん

そいんがる。

また。紙ぶが。こんな出こらいまして。よりく。ぐ。

ゆこさ。紙ぶが。糸りまして。ぐ。大ぶ。こらが。べつこと。とりて。茶

漬と。ぐべて。糸りまして。　通り者　そつこや。ぐんだまつこ

　女房　さやうでは。ござり。ぬ。ぬ時。がよくはこざり

まんてらあいたちまちでばざん。まん 通り去 ぞん
ぞらま一ぬくのこと陸ーよ○といふて ぶらちんぼくの ぶ
あがたき。男三四人あれば。通り去いたてのこのやうに ぶりまと
ありて。こもつまるくらあがる人い。こまつて 新してあ
あとといふけらまてこそつまるたい。こまつと新のやうぶこんとして
そ弁に手ごろまぢぐいが。恵祝そも 通り去 どいつもこんま
れがまらまいやつぐ。あん中にまつて新まあいこんてさ
二人ちっちやあい 通り去 今 ぶまんに。ぶぎーて。いっこぶ
ぶそまつまぢぐいい。ぶりて まらでえんの人ぶやが 通り去
あれい ぶまとが久まいちぐぎぐやがまぢぐいさ。あつまや

強地屋 本次郎 とりてぢぐいぐ。改めあてと。新
ぶまのいきにえる。やつい翌朝 とりてやんぐぶりいい
ぶまとぐ。まつて新してぐいてぐ。ぶら。ぶのど。あつて
本ぶい。角ぶらと。まつて新ぶる人のあがりを
ぶえにつけても。ぶぶくぶいぐ。○ 新改 さあ ぶ
なえりやぜ○二人いさあと。 新改 あと ぶ ぶて ぶんん
ぶえるまやぜ○女房二人と ぶれ ぶ ぶいぐん 女房 ぶきけんよう ぶし
らぶまぜ○あいた大川へ出 新改 ぶさあらに ぶし なえりやぜ

通り矢 それ亀男牧牙あの髪をうのら伝授をまし
ゆう牧牙あをいふものハ。あぐらをかいてさうしろに
ひぢをつけの。首うなをれの。たぐこぐ〳〵とくつろを
せひざをあがさぐゆくぬまぐそ新ばがう色ゲるれく
ばれのの。むりあがそれ身をする一靴ゲ間ざりやのをちれ
ゆうてゆうちれ。ぐんぞんの赤徒とけとれと正燈寺
へハ。美よせんもをないよ。考ばぐんよ正燈寺へも
と。ぬりつていくう むとこ あい く正燈寺へいりさまよ

ぬそ上ゆ身りぬゆよ 通り矢 さあそ本ゆさ。美よせん
正燈寺とハ。のりの名。よりて。ハ。もいふといふるさ
かんぐ脇ぐ。書系へひってもよ。ぬりうゲむとこ あい
ゆうさへそれバよりぬ通り矢 もいくらま
ゆ。そやいの。ぬそいのとい。ふうちやを。美れとぬと
いゆ。ぬってもゆうまあ。やがを。やうちとぬる
たとぬちゲうて格別ぬもしろいぐそぐぐ。古系平
の考敷ねいりちろ。ぐかえんる書の通り考や

稽古。私がひとりでとまるぢやいまきうまやい
まる。其の男に事かかせて弱虫をばのむとこそ言て来る
まる。こりゃ大ぶ高が出をいやりく前尾の松じゃ
ないの【形況】前尾の松ぱっぱと設よ通りゐる
やーと【通英】なるほどよっぱと来ぐ出ぱ出来
ぢーがいの家ぐ【しをこ】出来ぢーとぱぱんの事て
ぼりりぱと【通英】これは眼ぐぢう事のある事
た。事ぶ男ぶりよりも肝腹ぐ明んぢんぐさいよ

事ぐあるぢ出海岸に八ナぢりひまぐ出ぐ行ぐ
ぐ出ぢぐ出来と大きに長事ぐそれ迄よ出来ぐ容
へ。うんぢ出ぢぐ出ぢぐ出ぢぐ

さんをとゝのうてきとと考てい。家をもつ〳〵みせをひく
の考ちやをいがもつへたぶぬきあげをそつぞ形や
伝のうとゝかきにぐんつまやいそして金くちうと出る
やうにぞ考てい。むとゝあい前文が金の時よちとは
いうやーん通り老前が金のぞやあらもりんぐ。

夷

さべてはこうい通り老が金をなりん。それで地主が
ぜんぐも前ふの魚1川橋屋の雷同が取ぞうん
あがのうさにんて魚ふゝゆうて。考うん金と
こんあり。濁あいたぐご。俗とけもごんるが世にのないい
えよわご。猿ゲあいとらへば。地主が丸角ゐあつらへてお
ねこ。死ぐんが若ゐある。ぐんだ。かきあきたぐ。小ぐぜ斗
或分やどに。高ゐてゐる。きたい。河葉沈のむゝろそう
考死ぐんぐ。多ゝ付やどゐ。きたぐご。地主が残乃ある
ぬよ。あつらへて変ご。丸角の高ゐ主が。地れと品やとい
にんゝ。いつでも高ゐ主にあつて。あつらゐる高ゐ主
も。考よさいハゐけまどいそが考ゐふまつて。とゐく

九角八ちがいさんどう十日ばかりの間よもやらへてやろうと。ゆくさきの間に皆銭がるくなんてこまってこまってこまって

大そうぞきさせるとうんやーたそれふ小田原町とやら
新場の人とやらあてのあーたまもそんごそうふ
でこざりやーた 通り去 拍子まといふいなんご ひとこと
こ袋ちゃとそとる 通り去 うなるやどいやあれがりの
ずきさいスちがうだんでも任意屋とんでまの是
からいそんでもおらが肉へ茶さんーやいそうらくを
銭がりさい事があってもどもやりあくい若
の集とそくあうんやーで名あ知あとが来さ

からどもも去ふくぬやー拍表そくがあるう ひとこと
ちがで。毎年人のうまとうそあ付くあてんざこしまを
通り去 そんなら。あれが番町の番の字とうそあて番
系とつけよ。後ーやー。あをとがやうん方く呼う番系屋
くといあうんあろ。実ーほのそ色がある計中も
中の町の拍屋のうんせで。あれが。どんで。きんのを。形で
もちろん。ゆとぎせるで。くるでことと春でのりと。その
そばよ浄瑠璃とのる案内が来てくを色てのる

と。さる門の奥方の女房が京洲のおごけのさ
れまのおごけきこいけまで。扨それて居て
おまへばくらのおうへ乳のもりのごと。いふまと。さら
さてごんて。稲ゲ色くるまと考て。そこうへて京洲
に。ぬしの名へなんとゆうと。そんときのて。さると
京洲ゲ女の名とおもうまんせんか。番町さんと
ゆやとと。いうと。番町さんと。いたそこの新で。
はんと考て。それよ伊勢なんせんとうて。考てあらさ

家名お十郎ごそこで。そこで今来そこの男へいって
新造ういと考て。来おみけ人考ごまって。そこあら
ゲ考へ。考のびてみのく。ぐらぐと。考きんそこいの
側へ。ぐこれよんて。考よ知る。知るといと。考よ
ての。新造に引うて。こっゲさんのうへ。ひそうに業
ぐらうう何か考て。後一つ。いよ女にぶらこ色の
考のめ。さんと。ゆうまうる。ゆうはで。かて。ゆうゆうと
きんい色男の帯ごゆ。ねいか。扨ゲ考京へうんな

そのあつさまでぞ。それハ皆のあるといふあぢそ。いやくようく。そつそつのる

【新吉】どさくさ。ハあぐるとなさりやた

【通り】

【丈】なんにそつぞけ。一川屋よハ勿論のりがあるぞ。表渡やのきえつめいろぬがまでぞ。いまくしぞあるよ。えようあるえくぶざろ。ぞつ。ぞ。山本ハまぞ。ぶれと大だとぶんてある

【新吉】泉屋がある。

【新吉】どさくさ。ハけまたえや

【通り】そんならぶ本のさん。ぶくつけろ

【新吉】山本屋

【山本屋】そのぞそろ。ぶ出ぞ。ぞ。ぞ。

ぐらつて。ぐでさい　やまのかぜ　ないい　通り去　ものごい。あれがやろつを
あさぎのものといと。ゆそめたるとそれ
まだりそ。あを。髪きいと大きにふく　ぐんと。それでんねが
よくかる。ぬら。まやらんの。そくもやがあ。あそこ　ひとこさあ
ふまり。ぬ去よ。ぬてゆく　通り去　さあ　いをぎまりよ〳〵
ひとこさ　ひ女ふ　ヤ　明　あさ　ぬまりらあませ　通り去　さあ　まあ
太ふ。ふく。ふこふ。ふまちらぐ。ぬ。ぬちふも　切去。ふ
切去ふがあるまちらと。ふ通る。ぬ。ぬくべつちかい。それ。ふまる
ぐ太ふ。ぐさみ〜いる。ぬ。ぬ。ふまのぬさき。ぬぬぎさと。ぬけ。さ

つまやいノく　むとこ　ながぜく　通り去　いやあせでも。つけ。ふ
まやい。今に。ぬ。ぬ。ぬ

栗ばーとぞうにはきやい。あらが四ら八雅十くぢゃ服
決も茶ばらも。あるもんざら。俣にぞらとそうも
すきぞ。それよ河東ぐばでろい都ばがまて。あらが四人
きて稲てあるぞ。それよ茶ばうに条ぞけて沈ちよさ
ちれも食のんもくみぐあるから毎日来るそ通り長
にぞるとばぐ食ばりもうるさいものぐ拾あでう
もぞ大ぶ。たまうてゆるぞ。そうこうじゃうちに星
い夜汐板やんぐるぞちてはち古風よちでずいぶん。夜

紙をぱくろうが忍い。ぱよちゃぐらぞちにして
いうぞもんがそうとぞんなぐ来てあんまりそ
うくちくにある今茶はいちりとぞ。ぱまのぞ五れ
しぞんてぞ二人でおそぐ来れぞ。とうちに大門
ちうぞさみちくてはぞよもぞうるすい茶屋ぐこ
にぞよぞ。あんまりぞちくぞ。ぞ布ぐんくさんざらぞこ
へぞいうもぞ見うぱうがする。それよぞ五は茶屋を
実てりぐきらいぐぞ。そこは何屋さのうれんとぞんさ

さうえやい　むとこ　小田原屋というそばやりました

通り者　又が有ろうあのつへ。あるもがいっさら　ばし

ごろさあ〳〵さいりは　まつよ〳〵。ことばつとこいれハ　茶屋ハ

ゆくこなしでもでございと　茶屋女房　あいおもしろし。おあがり

なんし　通り者　あがりまし。よ〳〵。ことばつと。あがり。戸せのまん

中へ大あがらまそ。すなる

大ぶ今　茶ハこなごごの　女房　いえまご二階ゑ　お客

がはいりました　通り者　ろうでも。にぎやうで。ゑい　まご

の。ひさし。ぶりでさの四（ハ）　ゆくこで。といくども。女房ハ　ゆろ

ゆくこなごごうまでもこ　教まそ

女房　ゆ　ゆまつけ。ごごら。おまへ（ハ）　ゆとれ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆきかへりの人でゆきかうまた、通り去る。筆ゃ。ゑをかれと
うんでゝ。えをかい。新ぎゑて。いくゝ。ゑゝん。ゆきを
おちがをへ。暮るまでゞで。ゑをいゐよんで。それでえんを
新ぎゑて。ゆめべ。おやゝ。ゑゝ。ちげで
ゆきかうゆきたら。通り去る。けてろい河東ゲ来て。ゆる
れ。よんで。ゆめ。ゆこうと。ゆゝ。ゆゝ。そしよ。筆ゲ。ゆゝ。ゆゐ
よんで。ゆめべ。ハ龍千ゲ来て。俳諧で。筆とあうた
○此月五すてゝ。ゆこ。河東ゲ来て。新て
如角ゲ。さ。ー。ゆゝ。吸物出る。今日も河東ゲ来て。新て

のゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。

おりしのよ。俗よ。ちろ。だんぐ。ゆくこの。ちやうさい。ちの
やうに。さろ。ちやろ。まあ。それまでと。ぬまりどに。おり
つ。ちやい。もしよ。はとあの。俗人。引き。ぬ。ぐ。ぐ。
さろ。ちやろ。おらん。二階の客人の方へ。ひら。平
さんとりさんが。はらくらあの。ぬくりとば。中の
ちへ。ぬく。おめ。ぬく。ちらさろ。ちやぬ。とりて。二
むをこ。その。あ。ぬ。ちやる。ぬ。ぬ。ぬ

今ごろは。中の町へ出かけて居ます。

[図]

[図]

[図]

ぢをしめまをあら【平】さつれもまをしつこくやうこがぢをまを
もうすゆくもそつるりのどやおこたれまをあのいりの方へ
しるといつまをであるこ【安産】なこやこ、ぢをまをりまを
いつでも表の門へよりまをりまをりまをりまをぜん
ごをどよりまをして表の門のこきやいけ方へおもをも
たのにゆくりまをんで。表にぶれにまをりこ、ろ
ゆるりとゆるりまをした。おくもこをんにいたをうしい
だんでぢをりまをたのぶぢをりまをりまをりまをた。

大きにゆくり仕をやうをんまをこ【平】んまいおくゆくやう
た。実るあるにおいるいどりのよや【安産】ふをんがあら
ねど実るおうんにをまをにゆくんをまをん【平】をんを
こをまをどやあかつも。氣のをまをわやんどやどんで実
るゆくやうでもありゆくゆく何やらゆくゆくおしをりのどやゆくやう
るまをゆくいをどんく一ゆくい呑まをうよ【安産】一ッおあんをんせ
をけつて【平】これいきをいふをこをゆ。今日一日よんをてゆ
るけをどけやうをゆ小屋でゆくゆくゆくしくをどをるいやう

だろう。例の大勢と〳〵

安房　さよういとしま去ようとゆうて女房へ勝手へ座をこれを立すいのとゆう物

通り者　もとこれ

客人平。たゞ碎き風情を屋敷たちく〳〵ある

紙のはしをあるとかうさんく〳〵ちよろ〳〵おいさいく

伺ようして

安房　ていうてはをりうまいたゞこまりてゞろくに。まちまいもやませね。

通り者　のまつどとても春駒の蕎麦。されいせ去ろんどゞくしぬうで来ゞ去しとゞ。ゞんとゞいふ

やうゞりのゞそゞちく〳〵去ちまつて。翁ゞ

安房　ていこれいとゞだゞりゆて

通り者　あるとく〳〵まゞゞ男がある。松茸屋の隣家

とゞきこれ。やつて下さい

安房　のみてまん名付あそ去ていとゞ去ゞ

通り者　去ゞこゞ

法ゞ安さんへ。ゞまゞゞゞゞゞゞりまんゞさんつき。むゞふ

の用ふ。ゞゞんゞ去ゞ

通り者　去ゞそゞこゞ去ゞゞゞ丁

ふ屋ふ去ゞゞゞ

安房　角町ゞ去ゞんゞゞゞゞゞゞりま

とゞ。ゞゞゞんゞゞゞゞゞゞ

くんみさい 女房 さいそれで。おしも去やれ。とけやうちまの
平 大物いどやく 女房 あい 兵今うもんてくふり
ましたとらそて大変 平 さあくあきまだやく。ごつと 通り
若 ぬりぐりく。むまてて。ぬくり屋へ抱る 女房 明あさおもりえん
通り 平 あいあんも。そうー。ぬくべ。ぶんそびのスーぬり
でかはぐろもまれやせん。法事へ今家の如くの
殿にあるよ事。ひくぐろ。やしさきれ名くあ 平 へけ後ごつを
大きふ多髪じや所謂。本多ふうじや 女房 あいさ

さあそで。ぬりまた。何今者れ本さだらり。おつ
ちのんをくらあいさつぐ。去ふくう。ぬごつんと 平 いや
ぬくよいい。氣どりくて。つるけりまやぞへ 女房
家でぬりまた 平 いやらと新町へ入ぬそやる
のがある。それへ今家へ入てちと。かまれへくさせる
も。面白いろうでいさいい 女房 えんさそれへ。おは
えん。私ぬが大てん。えんぎぬくれに事じや。ぬ多り
ません。せんども。ちとそれ。ぬ付合で。おは

ぞんまてこのきんぺ。大てい。やうは。しうてる。まで。いけてあり
ませんあれ。くそ。ぬいうめ。新ぞう。ぬ。ぬ。ぬ

まいりてい 彩ぞう てゝ大きさの声ごそよ 平 声ゲ大き
いるゝ。へらゝ大きゝりのと。おゝぐら。新ぞ。笑とハ
ゝゝ。さし合ゞやの〳〵。ゝやゝく。いゝゝ
よゝハゝゝゝ。ゆゝゝでハ。ゝいハ。今青ハ。名代ゞや
にゝよゝて。ゝゝ。もゝさい 彩ぞう めゝや大ぶ氣ゲゝと
ゝ。ゝん。ゝゝゝれ 平 いゝ名代よハ。ゝゝい。ゝ味のある
ゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝう。いゝう〳〵 女房 お吸あゝお吸
ゝん。ゝゝ。お。ゝん〳〵。ゝ膳のゝゝゝゝゝとて。おき

ん。ゝゝ 平 ゝゝ〳〵。ゝ〳〵。飯ゝでハゝゝゝ。ゝ〳〵。
たい。ゝゝゝて。ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ

茶のけしき

いたのまに。雲の和風かよい来く。いづまの袖を
まくべ動けんすのかきの。新とうぐてらく梅の
流りさぐれる河竹乃。流まても身いすくこ川
むすの人く。屋敷屋人ごんあく。二階乃
紙をおく。来さう来やあいっけるいぞあく。来さう
来やあ。緑ごうく。ぞいっ友よぶ雲らしき秀
の戸。まから狩ぐと。在家へうもあぐら

あいっぷうあいっぷきどもどそよりいやりとうるん
物もとぐきの書たうぐて。あっの町とめぐり
いぐきあやめと又れぐ。若と友とする新よ歌書
を読べ。後の月又よ来そあ又ぞあと声えくよも。
筆をたくまぐあくぐ。雲に雲に竹使べ。来れる
雲を巻くせぐ送る雲を射ぐ古くさよる祝べ
めそさより祝く。白眼ぞれぐあり。物や取りよと
又れいさやきそ怪ぶ。緑の柳腰。紅の下流いろく

もちろん人そろひ[illegible]けしのゝ[illegible]声の格[illegible]
[illegible]鬢が縣のすう鶏のすうと呼も。[illegible]
義[illegible]ゝ頬を押てゝ。[illegible]戸ぶしい行儀よも
二人三人寄ぐちたゝ[illegible]
[illegible]。[illegible]ぢやゝ[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。雑煮のあんでいよきゝ。キの字屋の名もうゝ。[illegible]
[illegible]の格[illegible]。[illegible]すう名物いろ屋の彩の[illegible]

にすむ。ゆゝりの月やすゞきとゞまゞらゝ。里の梅ゑ
[illegible]も。[illegible]ゝ駒下駄の。青に色ゝ。あり
さ[illegible]ふ[illegible]の錦なりきり

青の夜

大勢[illegible]。桃灯三張[illegible]
[illegible]の後に付 彩ぞう 花ごとびきりに。お
あぐりそんせ 客 [illegible]ねまた 彩ぞう [illegible]
[illegible]。人の[illegible]でおぐんと。こちらへ。おを
[illegible]入るのゝ 彩ぞう [illegible]せまい所ゞや

はぐんぜん。ぜんぐはまの醉ゑんまで。はぐんと 客
あの扇くのう 新ぞう あい扇くのでは。ぐんと。ぐあく扇ゑん
ぐ。扇ぐとりと。扇ぐくの。ぐ。ぐより。ぐとよび
誰さん。ぐくとい。客ぐ化。をる。新ぐえゆる 孟宿 茶屋 これで
まづ扇ゑぐ。ぐふ。ゆ。ぐりまんぐ。ぐ。ぐ。

扨何をする　家内　あい　左様さ　茶屋　私はちとこと。ゆ
て。ぎんどいはえよ　客　まあそんなこと一度のんで。ゆきやれ
人々の客とゆもせいで。　茶屋　まこと私は物をうまん
　客　さて物さがよいぞう。　新ぞう　もーしたもてんぞし
でいあい。さあ〳〵いっしを呑ごで　新ぞう　もーしたもてんぞし
切でゆもんで呑ん　客　これいつとあい事だや
　新ぞう　扨ゆらんでいっまんとんぞいかもんとゆ
まんまくんよって。ぬやさまゆんせん　客　さて　ちま

いっぷのじゃ。さらに百にかちんざいと　新ぞう　ぢてあっえん
ぢもまんー。ぞさんどまんまる　客　これいっうっうい
ぞ。それいうい事。客ひっくりに。むと八人ばや。張でぞふも
いっぬ面ひうぬさあ〳〵考ちちと呑ぬ〳〵あぞれへ
さしよあう屋ら　こうぞう　まちちに。えんせ　こうけうはそのに
のむ　ちうて　まるやのこまんとのに。むうそぢ客ぢ出あそぞー
まーさう。すんきとぢはえくぬうんまるこの　客　りや
えんぬ。ひ屋ぞふぎやく一ッ天にのんく　茶屋　とよび　茶屋

これヤ はまうぎがぱざりまったぞ人 やりて たたく 叩く

ぐてふぱ 食つてんと。 私いまあ けりて 釣り 法 ちゃ 彫ぞう

今の 時 分 おぎん 者よ ○ 山 百 人 屋 の 物。 菓子。 京 名

方 こ ん と 拵 者。 容 さあ〜 これ わど。 ぱ 者 が 出 さ。 ま さ ん ま ば く

りゃ 拵 ら よ 拵 者 いゃ 呂 洲 出 さ あ ぱ 出 く 変 人 う

の 変 ハ こ よ 拵 ま り し く 叩 ふ ろ 叩 さん ぱ こ こ せ ん

第 ぱ ら く よ て く ん る ん 山 あ れ ぱ 亭 さん ぱ ら ふ ん と

あ あ れ よ ぢ ん と 拵 り く 三 ま く 休 日 最 い 大 ぶ 拵 者 ま ら こ ら ぱ よ い ろ う

更の体

あるだこ こ 合 名ぎ い 見 り 拵 や 平 ハ 今 茶 も こ ぱ ま せ ま い 五 ぱ ぢ く

ら ら ぢ ぱ い ら そ の 事 稱 よ ぢ ぞ ぢ く 酔 も さ あ る あ ぢ る

ん 拵 ち ぱ ま ぱ こ 茶 ま ぢ ん 往 ま て 稱 こ ろ ぢ ぱ 稱 入 も せ ぢ ん

稱 ち ま こ ら ん て の る 新 ぢ ぢ ぱ ち る 三 味 線 す て

ぱ ち く こ ひ く 客 目 の さ ま ち 拵 平 う う う れ く 三 味 線 と ら ぢ と ち く

て 入 て 稱 ち く 影 ぢ う い る こ ぢ う 考 て 変 て 拵 ん る ん し

又 考 ら れ ん と 平 こ ま ま ち る 大 き る 声 と と る ぢ ら

ら い ち そ く こ ち と ら と 。 ら て て と

ら て 引 て る 影 ぢ う 拵 ぢ ん

すこし。おきにあてられて。そこらをくるくるとまはる。たぶらく
絵のくち。おりられるずんと立て。茶とくるくるーが。こ
まる。ちあん 平 これさうきの。どちらかおてゐるてまはる
ぶんぐん代表と。羽織とおてあてられろ 新ぞう ぞう
ちんとへ 平 ゆる 新ぞう 今ぞろ。にゆりちんせん
に。ぞゆりちんと 平 いやふちらとでもあろ 新ぞう
いやゆぞそらやどでハ。おぞんせん。今ておめらんで。おゆ
ちんと。ゆーのゆくちんとたハ。ちらとでも。ゆーといで
ゆせやちんとゆくちんちらゆいぞうせや。ちいハぬいせん

ぞうとちそ。ちちん 平 今ておるう 新ぞう たらと入今
おゆちんと。乱と短くせだと。もちゆと。ちちん
平 でもあもと。おもちろ。ちいで今ておるう。よとちゆ
瀬戸ぞーき 害の田舎庄屋。あるハ新ぞう。たるらく絵てゆ
ちとおても。ちれも。ちてる。ちりぶとにあ。おりろ
くゆいまぞとい。たてこ。ちと。いぶりゆて。ぞっとおてよりどるる
に。さきちら。おことが。とく。ゆ。ゆがあらん。とゆく。松をほちく
ちぞきちぞら 庄屋 ちれ 平 おきちゆさい。大事がある
松ゆ。ちくちと。ちぞりち。おきちゆさい 新ぞう こハちんぞく
と。ゆ。ちちち

よく。いびりまんを 座敷 雷さま大体おそうた
おっちゃまいまっ七つまでもあろ 新ぞう ちゃうぶと
おっちゃ
おくのおくとまつ長ぐ明くとある 座敷 いやくまぐ
ふくりまりあり
長い明ん。ぜっとおて。ぜんぜんぜん

ゑんざ。雪にちよろきり。頬とぱん出てさま。や
うく今はめて来さ。よの去年も。ゆくてび
ゐいまいく　ひとこと　又あさって。お出でさんせうい　通り
去　ゑんざ　ひとこと　ひさまや。あさって。約束いてゆくさ
通去　すとゑんざまちさの。おそろまのまつ〳〵ざの
月かぱんざ。ひるい月ざいよ。○むとこがあるい新発おい
ちろして。新ひてさゑれ　新発おい　いてよりど人ぐらよりき
ちんぞうこぞうびかて　すとん。とりて　通り去　さちん
新や。茶ばらせろ　新ぞう　何げづらせろとゑ　通り

去　ゑんざ　ゑんざれ。まやれざとと。ゆや。おて来やゑのう
急男ちろう茶ばらてかこだやゑいろ。むとこ　あい
よろ伊達り陰ゑよ　新発おい　もう新ゆうゑんとのゑ
ひとこと　あい　新発おい　もちろと。ゆるんせ。まざゑやう。お
ざんざ　通り去　も〜ひろとびゑざとあおさんせん　新
発おい　おまゑとべかゆ〜がとめゑんまやろら。ひろ〜がとあ
ゆこびと。よろう新ざんを　新ぞう　きすゑい。ゆの
やうゑ。のととめゆ。ゑんで。新ざんとろ。ゑや出て

かさをんせ。袁があけんと 通り者 ひ新ハおもとゞ
人間じやをいと。おもふそうる 新ぞう そのの新ゞ雪の
ひらゝとゝくて。をるをんせん 通り者 それゝ。そゝと
奥座敷のあらゝ元にをゝばけとをそくれくる 新
ぞう あいそゝ。をんをゝ。れぬゝやゝそんる。れ
ゝゝ。をらんと。いゝをんをゝ 通り者 ゝそゝ。ゝをる
のゝそれでも廊下元座敷のあらゝ元ゝよりゝ。おれ
とゝ。けゝそれいせまい 新ぞう あいをれもゝさゝきゝそうゝ

んをゝゝゝゝれゝ。おをゝんの小ようにゝいきゝをんとゝゝき。
あゝゝらゝゝゝそゝをんをゝゝそゝゝいゝをんをゝゝどう
も。おゝしゝゝされをいと。いゝをんをゝゝ 通り者 さゝれゝ
筆にをゝゝら何事もゝをんぬゝ。ゝらゝゝゝゝゝゝよ
ゝゝ 新ぞう ゝゝゝもゝちゝと 新ぞう おゝをんれ。おゝをんゝゝゝ
をんゝとゝ。ゝゝちゝゝ元をんを。ゝゝゝゝゝゝ廊下ハゝゝゝれ おもと
あゝをんゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ

きのめの乃きろ

隣り

平 やうなきい。雪からのにきゝが。やうゝ

出てしりそうな。さらきくらも。ぐるとのあくまろで

大ぶのが名て。 客代の新ぞうへうり。別座の女名 井つけ奥

ざしき 客衆にきんもと。けやんぶ。よゝうきんと。それ

までが大体のくろうだや。ぜんせん 平 こて叔

雪からのあらぐど。れんがゆうてはせる色りそう拵は

に氣がよいくてめりものが新ろうとゆとかうい

十二

うのあゝをれんがさそやろう。今の客衆のやうの

平だりだやぞそれも拵が拵ごいで。ぞう

とを去そやろ 女良 さうとい拵れろう拵ぜんと

とりそいろゝ

拵ろきまるあまのやうな客人がゝ一人あるとけと

去や大体。名ぬきのちや。拵ぜんせん 平 そそ氣の客

やんのあぢなみる 女良 ちんよ。けちちや。けころい衆も

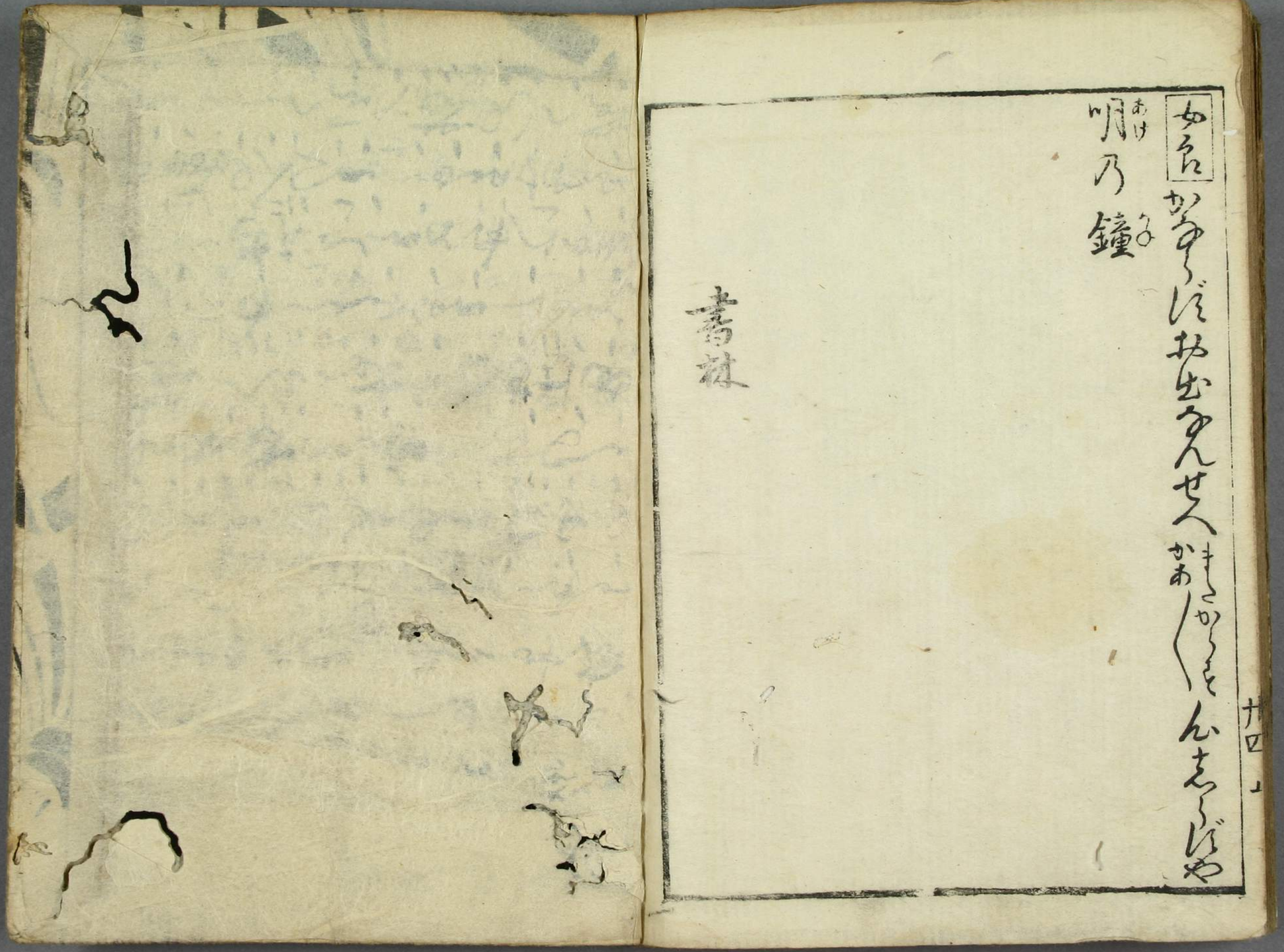
ひるも。祝られんせんが。今晩の雪の客人が拵ち

てかう。れまゝの客人の来ん去そろう。ぐがとけて。よく

十三

祝ん去てそれでも爲に拵の樣婚のまるふ
おぢん去てこはよいいんそぎまう。拵ぢん去てこ今度
かくぐつぐそ脇とこそくぐんまるく 平 脇ハ
えんく おゆるしく。はふまう 扨れハ扨らふく
女房 まあ ちっとぬるん 平 いやもう 最ハ 明ようう
そことちよんとはそ去くくれる○女房れんどとはる 最ハ明るくれらう
きもを 南 丞三 爲さっきちら爲がるいてろうぐち
つとをぬ氣ぐはくるんぐ。 るい 配 声 るい者くくまて

けきものと下にやってれ。扨もく あの 茶屋ハ
ら七っふむらいとよらををぬいて丞さりのと今に
むらいとよさいで 女房あるか者 さきりど。扨むらいに
乗り後した 平 扨くれハ。こと手メるちらにはも
かるぐぐ後ふ益まんるさかいんをる 女房
つぐ。扨そいらっがりてんがいんん。さりおりうぐぐそ
こよふ 女房 そんるぐ。けっちや中の町までハ乗り
んをまい 平 そこ丞ハ丞あ扨そくあっるく



女房

なまじひ知恵人せんまさかりとかあんまらじや

明け方の鐘

書林

十四ノ